

地域密着型サービス事業者 自己評価表

認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	広尾ふれあい館 2	評価実施年月日	平成 19 年 11 月 4 日
評価実施構成員氏名	小笠原 育美・徳永 清枝・岡崎 雅子・相津 敦子・石森 徳子・坂本 安啓・奥谷 里美・稲本 あずさ		
記録者氏名	小笠原 育美	記録年月日	平成 19 年 11 月 4 日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>生きている喜びを実感して頂けるよう一緒にゆっくり、楽しく暮らして行く事を支えていく支援。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>職員は理念を共有し利用者一人ひとりの生活リズムに合わせて実践し取り組んでいる。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>入所時に家族には、当ホームの理念・目的を説明し御理解頂いている。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>隣近所の付き合いは、散歩・買い物・床屋などの際に挨拶を交わし、日常は玄関の鍵をせず開放的に立ち寄る事が出来るようにしている。</p>	○	<p>隣近所の方は、立ち寄ることが少ないので老人会や町内会にPRして取り組みたい。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>老人会・保育所・地域敬老会・地域ボランティアの行事に積極的に参加し交流に努めている。</p>		
<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>事業所は地域貢献に役立つことがないか職員会議などで話し合いに努めている。</p>	○	<p>事業所、独自の地域に対する貢献は今のところ無いが、地域のお年寄りの集まる場所としてボランティアの方と共働き、地域貢献に取り組みたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	年1回は職員と自己評価を行いそれを活かして生活環境の改善、介護支援に取り組んでいく。 また、当ホームの外部評価は実施されてはいるが、今後行われた際、指摘事項等については運営委員会・家族に説明し、管理者・職員は改善に取り組んでいく。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営委員会で出された、アイデアを取り入れボランティア会が発足し、会員が月1回慰問されサービス向上に活かされている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	介護保険担当者・福祉担当者と、必要に応じて情報交換しながらサービスの向上に取り組んでいる。	○	職員も活発に慰問して下さるボランティアの会員に意見を頂きながら参加し盛り上げて行きたい。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	管理者や職員は成年後見人制度等を認識し入居者の家族にも活用し、必要とする家族には相談して支援に取り組んでいる。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員会議で虐待防止について学習し、管理者は施設内で虐待をしない介護に注意して防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に重要事項説明書で家族に説明し同意を得て契約を結んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者の意見・苦情・不満・不安に対する相談は、職員が対応している。 また、意見は出来る事は取り入れている。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>利用者の金銭管理は管理者が毎月、暮らしぶり・健康状態・ホームで行った行事などコメントをそえて定期的に郵送している。</p>	○	<p>利用者一人ひとりの健康状態や暮らしぶりを毎月定期的に職員の協力を得て家族にお手紙を書いて報告して行きたい。</p>
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>相談窓口を設置している。 管理者は職員と話し合いをもうけ、改善できる事は運営に反映させている。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>スタッフ会議を毎月開催し、意見・提案を聞く機会を設け反映させている。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>利用者の状況変化に応じて、勤務体制も速やかに対応できるよう会議で話し合いを行っている。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員の退職、異動は利用者が不安になったり悲しんだりする事が有るが他の職員が対応し努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	管理者研修は年2回法人が行っている。また、職員は初任者研修を行っている。	○	職員が意欲的に研修に参加できるようシフトを組んで行きたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者は当事業所全体の研修・会議等交流する機会があり、そのつど職員へ報告しサービス向上に努めている。	○	町内、隣町にも介護施設があり訪問研修の交流を検討し、職員の質向上に取り組んで行きたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	運営者は、年2回職員の親睦を計るための日帰り旅行などを儲けている。また、管理者は、職員の相談を受け悩み解消に取り組んでいる。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	職員の勤務状況、実績により定期昇給や賞与を支給し向上心を持てる職場づくりに努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	生活環境が変わり不安・困っていること・求めていることなどを本人から聴く姿勢で接している。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	利用者が入所するときには、事前に家族と面談して、不安なことや求めていることを話し合い信頼関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所時に支援専門員と管理者が面接を行い入居者に必要な介護計画を作成し、家族に説明し、同意を得て支援している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	介護計画を実施するに当り、職員は利用者の人格尊重、生活の質を見極め拒否される事は無理に押し付けず、徐々に様子を観ながら進める介護を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は利用者との会話を大切にし活躍の場を儲け、本人から学んだり助け合う関係を日々検索しながら行っている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族とは、入所後も定期的に訪問を依頼し、時には外出・外泊も協力を頂きながら共に一緒に支え合う関係を築いている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族と本人とは、入所後も定期的に訪問を依頼し良好な関係が築いていけるように配慮している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入所後も住み慣れた地域の知人・友人・兄弟を訪問するときは職員が送迎をし、関係を途切れないよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者が自室に孤立する事の無い環境作り に心がけ、現在も利用者一人ひとりが毎日 同じ場所で一緒に日中はリビングで過ごし、 その間職員・利用者に関わり持ち楽しく過ごし ている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的 な関わりを必要とする利用者や家族には、 関係を断ち切らないつきあいを大切にしてい る。	他の施設へ移動されても職員が訪問し 利用者とはふれあい合うよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意 向の把握に努めている。困難な場合は、本 人本位に検討している。	一人ひとりの生活歴の聞き取り、また家族 より暮らし方の希望を聞いている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし 方、生活環境、これまでのサービス利用の 経過等の把握に努めている。	在宅での暮らし方、またサービス利用の内容 を家族・介護サービス担当者から聞き取りを している。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、 有する力等の現状を総合的に把握するよう に努めている。	一人ひとりの生活障害や持っている機能の 現状を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、介護支援専門員の適切な 監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と 話し合い、それぞれの意見やアイデアを 反映した介護計画を作成している。	介護計画は介護支援専門員の管理のもと 家族・介護サービス担当者からの情報提供を もとに作成され支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画は3ヶ月毎に職員によるモニタリングで見直される。また、それ以前にADL変化が起きた場合は、支援専門員・職員が協議のうえ対応をしている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者の生活状況はケース記録にて管理し職員は情報を共有し、課題の検討に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	買い物・外出・病院受診等の希望を出来る限り支援し行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティア・学校・保育所・町内会・老人会と交流や文化活動などを協働し支援している。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	利用者の必要性に応じ、他のサービスを利用することが出来ないか職員と話し合いに努める。	○	利用者の必要性により、包括支援センターと話し合い、他の事業所のサービス活用が出来るか検討する。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	町福祉課や家族と相談し必要な利用者には権利擁護の為に成年後見制度の活用を支援している。	○	利用者の長期的なケアマネジメントなどは、当施設の支援専門員と検討し支援センターと協働する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>43 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>利用者一人ひとりが、入所前にかかり付けていた病院を継続し支援している。</p>		
<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>44 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>認知症専門の大江医院へ月1回受診を支援している。</p>		
<p>○看護職との協働</p> <p>45 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>看護職員は配置していないが、職員が利用者一人ひとりの健康状態に変化が生じた時は、かかり付け病院の受診を支援している。</p>		
<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>46 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>利用者が入院した時は、主治医や家族と情報交換し早期退院ができる様に、連携し取り組んでいる。</p>		
<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>47 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化や終末期に向けたあり方を主治医や家族と早い段階で相談し、それらの情報は職員に説明し、共有し対応する。</p>		
<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>48 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>重度化や終末期の利用者は、家族と相談し出来ることを介護して穏やかな生活を支援する。また、主治医には情報を提供し必要な時は、入院措置などで支援を検討する。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	利用者が他の施設へ住み替えるときは、介護責任者と話し合い情報提供し介護に支障が生じないよう支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	利用者の呼びかけは「さん」付けで、訪室の際は声掛けし了承を得て、人格を尊重する介護に努めている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	共有空間は見やすく、わかりやすい表示、コミュニケーションは非言語的手話も使いながら説明に心掛けている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	施設の決まり事は良く説明し納得しているが、一人ひとりその日の状態を尊重した生活を支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	地域交流の為に近隣の理容店が訪問、または、利用者が出向いてくようにしている。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は職員も一緒取り、一人ひとりの好みに合わせ献立を替える事もある。また、一人ひとりの力を活かし一緒準備、食器洗いなどの手伝いがあり、職員が対応しなくても分担しながら行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	当ホームは、酒・タバコを好む利用者はおりませんが、お菓子などは一人ひとりの要望に合わせて、買い物へ散歩しながら行ったり、食材を買いに同行して頂いています。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄障害の人については、時間または状況に応じてトイレ誘導をしている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴日は決めておらず毎日としています。また、本人が希望しない場合については無理強いしないよう支援している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	室温や照明に注意しながら、また毎日の入浴を勧めることにより気持ち良く休息が出来るよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者一人ひとりの力に応じ、食事の支度・片付けや洗濯干しなどを行って頂いている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者の能力にに応じて、少額の金銭を所持し、買い物で使用できる支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	暖かい日には散歩や買い物に出かける支援をしている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	年間行事より月別に担当職員を決めて遠足・ドライブ・温泉などへ出掛け楽しんで頂くよう努めている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	家族・知人への連絡の取次ぎなどの支援をしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族には、定期的に訪問を依頼し行事などの参加を連絡している。また、知人等の方も気軽に訪問されるよう呼びかけしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はしない方針を職員に徹底している。管理者は職員の介護を把握しており拘束をしない介護に取り組んでいる。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室や日中玄関も鍵を掛けないケアをしている。また、玄関は人が出入りすることで防犯ブザー音が鳴るよう工夫している為鍵は掛けていない。	○	夜間の火災が発生した場合は隣近所の協力が必要であり避難訓練の参加を働き掛けて行く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○利用者の安全確認</p> <p>67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>利用者の部屋に訪室する際は、声掛けや了承を得るなどプライバシーに配慮している。また、所在確認は声掛け見守りに努めている。</p>		
<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>利用者の状態に応じて、注意の必要な物品などは、本人または家族の了承を得て保管・管理に取り組んでいる。</p>		
<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>職場研修で、転倒防止や服薬介助等の学習を行い、また行方不明の捜索訓練・避難訓練など緊急事態の対応に取り組んでいる。</p>		
<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>職員は救急救命講習や年2回の避難訓練を実施し初期対応の訓練を行っている。</p>		
<p>○災害対策</p> <p>71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>火災・地震等の災害を想定した避難訓練を消防署員より指導を受け職員と利用者が一緒に実施している。また、消火器・火災通報装置機の取り扱いの指導も受け実施する。</p>		
<p>○リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。</p>	<p>身体機能の低下によるつまずき、転倒やベッドからの転落事故の場合の対応策を家族と話し合っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に 努め、気づいた際には速やかに情報を共有 し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェックや状態の変化、異変 に気づいた際には速やかに病院へ受診 する。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量について理解し ており、服薬の支援と症状の変化の確認に 努めている。	利用者一人ひとりの服用する薬の目的や用 法を理解している。また薬は施設で管理し服 用時は介助し症状の変化は主治医に相談し ている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解 し、予防と対応のための飲食物の工夫や身 体を動かす働きかけに取り組んでいる。	利用者の便秘については主治医に相談し、 薬での改善や食事管理を行っている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じ た支援をしている。	口腔洗浄は朝・晩に行い一人ひとりの口腔 状態を観察している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態 や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量を確認しながら、苦手な食材の 調理方法を工夫しながらの支援に努める。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めが あり、実行している(インフルエンザ、疥癬、 肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症の対策には予防接種を受け、また手 洗い・うがいをを行い予防に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所用具・布巾などの消毒を行い、調理職員の手洗い・食材賞味期限管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関や建物周辺の清掃、また花壇を作りし訪問者に親しんで頂けるよう工夫している。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間は居心地良く過ごせるよう窓を開け空気の流れ替えをしている。また、季節感を楽しんで頂ける様、施設内の装飾をしている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者さんがくつろいで頂ける場所として季節ごとに装飾したりしている。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者さんが使用されていて家具などを持ち込み居心地良く過ごして頂けるように取り組んでいる。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	室内・共用空間の温度調節を行い、加湿器を使用している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	身体機能の低下に対応する為、施設内は手すりを設置し安全な環境づくりをしている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	失禁・失便などの失敗で混乱しないよう支援に取り組んでいる。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	花壇・畑を作り、利用者さんが草取りなどし活動している。		

V. サービスの成果に関する項目		
	項 目	取 り 組 み の 成 果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	①ほぼ全ての利用者 ★利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	★毎日ある ②数日に一回程度ある ③たまにある ④ほとんどいない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	★ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	★ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	①ほぼ全ての利用者 ★利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。	★ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。	★ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係が出来ている。	★ほぼ全ての家族 ②家族の2/3 ③家族の1/3 ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目		
項	目	取 り 組 み の 成 果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	①ほぼ毎日のように ★数日に一回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業者の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ★少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
98	職員は、生き生きと働ける。	★ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	★ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	★ほぼ全ての家族が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる・アピールしたい点等を自由記載)

* 利用者一人ひとりが安心して暮らして頂けるよう「ゆっくり・楽しく」過ごす。(利用者さんの笑顔が見たいから…)